

令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

| | | | | | |
|-----------|------------------------|--------|------------|-----------|--------------|
| 団体名 | 高槻市 | | | 代表者名 | 濱田 剛史 |
| 担当者部署(属性) | 情シス担当 | 担当者部署名 | 総合戦略部DX戦略室 | 連絡先電話番号 | 072-674-7343 |
| 担当者役職 | 主任 | 担当者氏名 | 穂積 義隆 | 連絡先E-mail | |
| 住所 | 569-8501 大阪府高槻市桃園町2番1号 | | | | |

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

| | | | |
|-------|--|---------|-----------|
| 団体名 | | 連絡先部署 | |
| 担当者氏名 | | 連絡先電話番号 | 連絡先E-mail |

1-3. 支援を求める内容

| | | | |
|----------|--|-----|---------|
| 支援方法 | 職員向け啓発・研修（単独） | 事業名 | 生成AI利活用 |
| 概要 | 生成AIの技術進展と自治体での活用事例の増加を踏まえ、管理職向けに研修を2回実施する。生成AIの基礎的理解と日常業務における具体的な活用方法を実践的に学ぶとともに、利用時に想定されるリスクや留意点について理解を深める内容とする。また、参加者が具体的な業務への応用を考える機会とするため、ワークショップ形式の演習を含めた構成とすることを希望する。 | | |
| 支援を求める分野 | 人材（DXに関する知識習得・研修・育成） 生成AI活用 | | |

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

| | | | | | |
|----------------|---------------|---------------|---------|--------------|--------------|
| 2-1. 対応日・時間 | 期日・支援内容の変更あり | 受付番号 | 変更後の派遣日 | 変更後に実施した支援内容 | 実地/オンライン |
| | 無 | | | | |
| | 派遣日予定日（申請書より） | 支援内容（申請書より） | 開始時刻 | 終了時刻 | 内休憩時間（分） |
| | 令和7年11月14日 | 講演(実地) | 9時15分 | 15時15分 | 90 |
| | | | | 活動時間（分） | 270 |
| 2-2. | 会場名 | 高槻市役所 | | 最寄駅 | JR高槻駅／阪急高槻市駅 |
| 派遣場所 | 所在地 | 大阪府高槻市桃園町2番1号 | | 最寄駅からの交通手段 | 徒歩10分以内 |

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

| | |
|-----------------------------|---|
| アドバイザー | 新井 イスマイル |
| 評価 | 大変良い |
| 上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に） | 生成AIの概要から他市での活用事例、日常業務での具体的な活用方法等をご説明いただいた。ワークショップ形式で受講者自身がツールを操作する機会を設け、利用時に想定されるリスクや注意点についても具体例を交えて解説していただいたため、受講者の理解度と実践意欲の向上につながった。事前打合せを当初の予定より増やして本市の利用環境や業務実態に合わせて内容を調整いただいき、非常に有益な研修となった。 |
| アドバイザーへの要望事項 | 特に無し |

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

| | | | | |
|----------------|-------------------------|----|-------|-----------|
| 4-1. 支援を受けた対象者 | 属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】 | | 合計人数 | 125人 |
| 属性 | 自治体職員 | 住民 | 企業・団体 | その他(学生など) |
| 人数 | 125 | | | |

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

| | |
|------------------------|--|
| 事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい） | 本市では、令和5年度に生成AIに関する庁内研修を実施し、生成AIの活用可能性について、一定の認識共有を図った。しかし当時は技術の登場初期段階であり、研修内容も生成AIの概要紹介や簡単な対話体験にとどまっていた。 その後、全国的に生成AIの行政活用が進み、文書作成支援、住民対応、FAQ対応、議事録作成など、具体的な業務への導入事例が増加する一方、誤情報の生成、個人情報取り扱い、知的財産への配慮といったリスク面への対応が重要課題として挙げられている。 本市においては、申請により生成AIの使用を承認しているところではあるが、職員によって生成AIに対する理解度やリスク認識の程度にばらつきが見られ、組織的な活用ができていたとは言い難い状況である。こうした現況を踏まえ、まずは管理職層から事業や業務への生成AIの活用について適切な判断や意思決定ができるよう、利活用ケースやリスクについて理解を深めることが課題である。 |
| 支援により目指す成果（具体的にご記入下さい） | 令和8年度末を目処に、生成AIの利点及びリスクについて管理職層の理解を深め、組織としての活用が可能な状態を構築することで、定型業務等の効率化を図り、より重要な政策立案・施策実行に注力できる環境を整備する。これにより、地域課題への対応力を高め、最終的には市民生活の質の向上や公共サービスの充実といった形で、住民の利益につながることを目指す。 |

| | | |
|---|---|-------------------------|
| アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい) | <ul style="list-style-type: none">・生成ＡＩの概要、他市活用事例紹介・日常業務での具体的な活用方法・生成ＡＩツールの操作体験・利用時に想定されるリスクと注意点 | |
| 支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい) | これまで生成ＡＩをほとんど使ったことがない職員でも、基本的な操作方法やプロンプトの作り方を実践的に学ぶことができた。受講後のアンケートからは、研修内容の理解度や業務での活用意欲が概ね高いことが示され、特に議事録作成、文案・答弁書作成、マニュアル整備、アンケート集計・要約等をすぐに実務で試してみたいという声が寄せられた。今後も継続的な取り組みへとつながることを期待している。 | |
| 具体的な成果物 | 最も当てはまるものをリストより選択下さい。 | ⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない |
| | | |
| 改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください) | 特に無し | |
| アンケートの内容と分析結果 | 講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(E X C E LやP D Fでの分析結果を添付されても結構です。) | |
| | アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 別紙参照 | |
| 4－3. 今後の計画 | 最も当てはまるものをリストより選択下さい | ②次年度に予算化を図り推進する |
| | | |
| 4－4. 事業の最終的な目指す姿 | 生成ＡＩの利点及びリスクについて職員全員が理解しており、定型業務等の効率化を図り、市民サービスの向上や、より重要な政策立案・施策実行に注力できる状態 | |

| | | |
|---|---------------------------|---|
| 5.報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可 | | https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/ |
| 掲載許可 | <input type="radio"/> 掲載可 | |

なおくその他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真（JPEG等）」を数枚程度貼り付けて下さい。

